

不動智 「ふどうち」

瀬田工業高等学校

瀬田工業高校の部旗には力強い「不動智」の文字が書かれています。

この文字は、昭和時代の剣道界の重鎮、三橋秀三先生（1904～1984）揮毫によるものです。三橋先生は戦前東京高等師範学校等で剣道の師範となられ、文部省の依頼で学校剣道の普及に努められ、戦後は静岡大学、岐阜大学、中京大学、中部工業大学で剣道の指導をされ、剣道を科学的に観ると同時に伝書に学ぶという姿勢で研究されました。

「不動智」という言葉は、江戸時代前期に登場した禅僧沢庵宗彭（タアンソウホウ）が、柳生宗矩（ヤシユムネリ）のために書いた「不動智神妙録（トウチシニョウロク）」に由来します。

沢庵はこの著書で「不動智」のことを「不動と申し候ても、石か木かのやうに、無性なる義理にてはなく候。向ふへも、左へも、右へも十方八方へ心は動き度きやうに動きながら、卒度も止らぬ心を不動智と申し候。」と述べています。つまり「石か木のように全く動かないものではなく、一つの所にとどまらず動きたいように動きながら、どんなことにも動揺したりとらわれない心を不動智という」と説明しているのです。

試合に臨もうとしたとき、緊張感しすぎて相手のちょっとした動きに心に動揺が起こることがあります。このようなときは決して満足のいく試合は出来ません。したがって試合に臨むまでの間に稽古をしっかりと重ね、動揺しない心を鍛えねばなりません。稽古で流した汗は心に蓄積され、知らないうちに動かぬ自信を植え付けてくれるのです。

瀬田工業高校前顧問の今井健之先生は三橋先生の晩年の弟子で、三橋先生から「不動智」の文字を染めた手ぬぐいをもらわれました。三橋先生から教えられた「先人の教えに学ぶ心」を生徒たちに伝えるため、今井先生はこの部旗を作成されたと聞き及んでいます。

「不動心」という言葉について

「不動智」とほとんど同じ意味で使われる言葉に「不動心」という言葉がある。国士舘大学剣道部の座右の銘が「不動心」であるということを知り、北川三郎先生から教えていただいたことがある。「平常智」と並んで剣道家だけでなくスポーツや諸芸に打ち込む人たちが好んで使うこの言葉の語源は「孟子」にあった。孔子の考えを継承発展させた孟子（前 372 ごろ～前 289）の言行録「孟子」の「公孫丑章句上」に『我レ四十ニシテ心ヲ動カサズト』という記述がある。『私は四十になって心が動揺することがなくなった』と述べているのである。これは「論語（為政）」で孔子が『四十ニシテ惑ハズ』と述べているのと同じような意味であろうと考える。この言葉が後に禅の思想などと結びつきながら、今日私たちが知るような意味で使われるようになったのではないかと考えている。

八日市高校の道場には「不動心」の扁額が掛かっている。これは、昭和60年3月の剣道部卒業生24人が顧問であった私に「道場に大きな卒業記念を残したい」という願いを伝えてきたので、南禅僧堂で師家（シヤ：修行僧の師匠）をしておられた高山泰巖老大師に揮毫をお願いして作ったものである。

「不動心とは自由自在に動きながら動揺するところがない」ということを教えるすばらしい額になった。